



びじゅつって、すげえ! 2020-2021

Vol.1

美術館においでよ。

びじゅつって、すげえ! 2020-2021
Vol.1 美術館においでよ。

目次
Contents

ミネラルからピグメント

02
美術で
元気になる

03
好奇心を
くすぐる箱
教材ボックス

05
A
ストーン・ボックス

07
B
プラント&
メディスン・ボックス

09
C
CCボックス

calcium carbonate
炭酸カルシウム

11
D
マテリアル &
テクニク・ボックス

13
Hands on Works
青木美歌

14
Hands on Works
中井川由季

15
Hands on Works
井上雅之

16
Hands on Works
橋本真之

17
Hands on Works
小松 誠

18
Hands on Works
佐野 藍

19
Hands on Works
小川信治

20
Hands on Works
木島隆康

21
Hands on Works
時松辰夫
器コレクション

22
Hands on Works
椅子
コレクション

23
OPAM WORKSHOP
特別ワークショップ
おうちで
ワークショップの
ために

24
OPAM WORKSHOP
特別ワークショップ
ソロ・ミュージアムの
すすめ

25
OPAM WORKSHOP
夏の特別
ワークショップ

鉛筆ってすげえ!

27
OPAM WORKSHOP
秋の特別
ワークショップ

28
OPAM WORKSHOP
冬の特別
ワークショップ

29
OPAM WORKSHOP
特別ワークショップ・
レクチャー
What's
Museum?

32
OPAM WORKSHOP
特別連続
ワークショップ・
レクチャー
未知っち、
見ちっち

33
音を描く、
絵を奏でる

43
びじゅつかんの旅
旅したく

vol.1 科学者と表現者

“みる”を楽しもう!

美術で元気になる

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため3月から休館していた美術館は、4月6日に再開したものの、緊急事態宣言に伴い、再び4月16日には休館した。このため、4月に予定していたワークショップはすべて中止。OPAM5周年記念事業である1階アトリウム空間を使っての4大ワークショップも、中止となった。

昨年度、「美術館をめぐる7つのお話」の最終回、開かれた美術館について語っていただいた木下直之氏(静岡県立美術館館長、東京大学名誉教授)は、「リアルな美術館は人間が作り出したものとの『濃厚接触』の場である」と言っている(静岡新聞/時評/2020.5.14)。モノとの濃厚接触の場である美術館だが、そこでのワークショップは人との濃厚接触になりやすい。特に当館の教育普及活動は、人との距離が近い、いわゆる密になるプログラムが多い。これは自身の視点を確立するために、まずは身体と感覚を活性化させることが大切と考えるからである。コロナ禍においては、極力、人との接触を避けなければいけない。そこでOPAMブログでの発信を積極的に行った。そして5月には美術館は再開、教育普及のプログラムも、事前申し込み・少人数限定・時間短縮・内容検討で、再開した。

コロナ禍により、今までの生活様式は考え直さなければならない時代になった。感染防止のために自粛しなければいけないことと経済を停滞させてはいけないことの論議がよくされる。しかし自粛で、そして経済停滞で、文化が停滞するのは?ということについては、多くは語られない。そんな時代の今年度の教育普及活動は、このコロナ禍で、何ができるのか、そしてコロナ終息後、何が大切なのかを考え行った。その活動を記録的要素の強いVol.1「美術館においでよ。」と、美術と美術館を楽しむためのテキスト的要素の強いVol.2「あれも、これも美術。」にまとめた。この2冊の本を読んだり眺めたりしながら、時には美術館に来てほしい。これからも美術や美術館に触れて元気になってほしいから、「びじゅつって、すげえ!」と思えることを、みんなと共有していきたい。

大分県立美術館 学芸企画課
教育普及室 室長
榎本 寿紀



ストーン・ボックス
STONE BOX

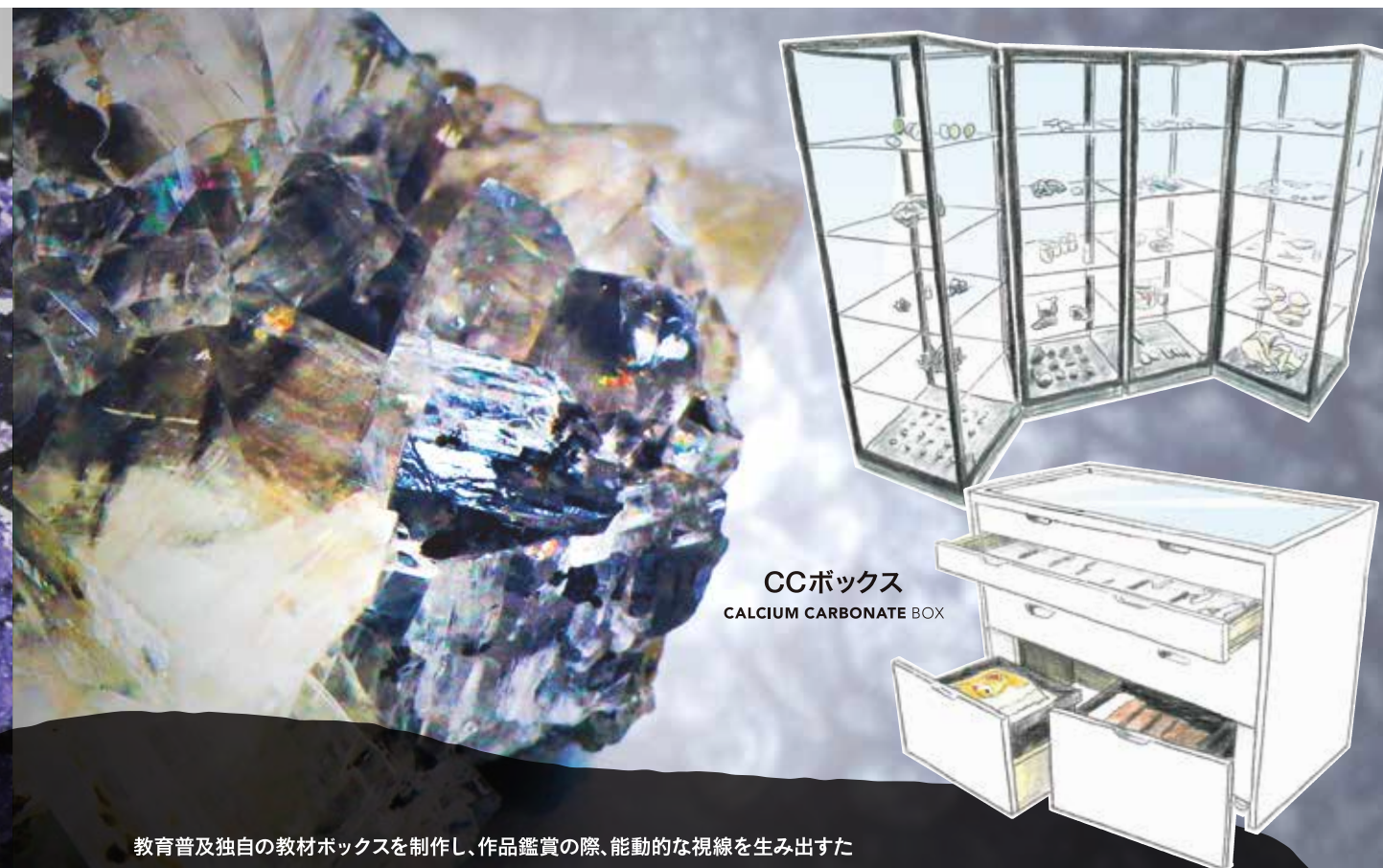
OPAM BOX

好奇心をくすぐる箱 教材ボックス

足元の石ころ、朝露の滴や夕焼け、そして草花や空を飛ぶタネなど、私達の身の回りに存在する“美”。身近なモノに目を向け、そこに在る“美”を発見する独自の視点を獲得できると、美術作品に出会ったとき、見方、楽しみ方はいっそう膨らむ。大分県はジオパークにも選定された自然あふれる景観と数多くの遺跡があり、文化的行事も少なくない。こうした大分の自然・環境・風土・歴史・文化に目を向け美術的視点でとらえると、県全域が美術館・博物館と言えるような魅力にあふれている。そこから



プラント & メディシン・ボックス
PLANTS & MEDICINE BOX



CCボックス
CALCIUM CARBONATE BOX

教育普及独自の教材ボックスを制作し、作品鑑賞の際、能動的な視線を生み出すための補助教材として、講座やワークショップなどで活用している。全体が4つのボックスで構成され、県内の自然から採集した実物標本を中心に、様々な素材・色材、道具、あるいは所蔵作品に関連した画像や資料からなる。利用者が日常から美術の世界へ、ワクワク、ドキドキしながら、一歩足を踏み出すことを誘いたい。



マテリアル & テクニック・ボックス
MATERIALS & TECHNIQUES BOX

OPAM BOX

STONE BOX

ミネラルからピグメント ストーン・ボックス

絵の具やクレヨンなど絵を描くための材料(色材)は、今では画材店や文房具店で購入できる。その多くは合成してつくられるが、古くは天然資源(鉱物・植物・動物)からつくられてきた。ボックスAでは、鉱物と天然顔料を取り上げている。

マラカイト・孔雀石

シナバー・辰砂

ヘマタイト・赤鉄鉱

ラピスラズリ・瑠璃

ソーダライト・方ソーダ石

カーネリアン・紅玉髓

タイガーズアイ・虎目石

クリソコーラ・珪孔雀石

アズライト・藍銅鉱

水晶(尾平鉱山こうもり抗跡)

蛍光X線で水銀が検出された石(別府金山跡)

蛍光X線で銅が検出された石(木浦鉱山跡)

Workshop

岩石と鉱物

● 夜のおとなの金曜講座
視るは楽しい教材ボックス

石は磨けば宝石、砕けば絵の具になる。県内各地で採集した色とりどりの石をはじめ、世界の、日本の、いろいろな石や結晶した鉱物を紹介した。



石から顔料、そして絵の具へ

● 夜のおとなの金曜講座
大分県から絵の具をつくる

石を金槌で砕き、ふるいにかけて、乳鉢ですり潰し、紗幕で濾す。絵の具のもと、顔料のつくり方を紹介した。参加者たちは手間のかかる地味な作業に驚き、今までにつくった1000色以上の大分県の顔料には、さらに目を見張った。



石って、すげえ!

● 出前ワークショップ
すはる保育園 4・5歳児 (宇佐市)

青木美歌氏のガラス彫刻、佐野藍氏の大理石彫刻、橋本真之氏の鍛造作品を、素材である鉱物とともに鑑賞する。さらに絵の具となる鉱物も紹介。最後は細かい粒状の石でモザイクをつくった。



OPAM BOX



PLANTS & MEDICINE BOX

プラント & メディスン・ボックス

身近な植物は、色彩も形態も魅力的に映ることが少なくない。時には人を和ませ、また食材となり、あるいは毒にも薬にもなる。植物を美術的視点でとらえ、想像と創造の源の一つとなるように、ボックスBを制作した。



日本茜・ニホンアカナ (由布市庄内町)



芙蓉・フヨウのタネ



サフランの球根 (竹田市)



梔子・クチナシ (由布市挾間町)



紅花・ベニバナ
(ワークショップ参加者Sさん栽培)



亜麻・アマ (豊後高田市長崎鼻)



藍・アイ
(ワークショップ参加者Sさん栽培)



霊芝・レイシ (竹田市)



アルソミトラ・マクロカルバのタネ



蒲・ガマの穂 (杵築市)



紅葉・モミジのタネ (佐伯市宇目)



紫根・シコン (竹田市志土知)



七島蘭・シチトウイ (国東市安岐町)



桃仁・トウニン



亀甲竹・キッコウチク

Workshop

紅花を育てよう!

● 朝のおとなの1010講座
大分県から絵の具をつくる

紅と黄色の2つの色素を持つ紅花。OPAM教育普及では、サポーターや参加者たちとともに、紅花の栽培とタネの収穫を開館2年目から行っている。複雑な染色の工程から育て方までを紹介し、秋まき用のタネを配った。



スパイラル・シード

● 出前ワークショップ
中津市立樋田小学校 1~3年生 (中津市)

グライダーの元になったアルソミトラ・マクロカルバのタネを、高い所からそっと離すと滑空する。カエデのタネは回転し、タンポポのタネはフワフワ舞う。いろいろなタネを視た後、回転しながら舞い落ちるタネの形をつくった。



OPAM BOX



CALCIUM CARBONATE BOX

CCボックス

(calcium carbonate／炭酸カルシウム)

石灰岩、大理石、方解石。建築材料から日本画顔料まで用途が変わると名前も変わるが、全て炭酸カルシウム。ボックスCは炭酸カルシウムに焦点をあて、その頭文字(calcium carbonate)から「CCボックス」とネーミングした。



Workshop

ザ・鍾乳洞 炭酸カルシウムのカタチ

● 夜のおとなの金曜講座
見るは楽しい教材ボックス

長い年月をかけて出来上がる鍾乳洞。県内の鍾乳洞から風連鍾乳洞、稲積水中鍾乳洞、小半鍾乳洞を、石灰岩や方解石とともに美術的視点で紹介した。



白と黒

● 夜のおとなの金曜講座
大分県から絵の具をつくる

身近なモノから絵の具をつくる。白は天然白土や鉱物を砕いて水晶末・方解末をつくり、貝殻から胡粉をつくる。黒は植物・動物を炭化させ、あるいは油煙・松煙から墨をつくる。県内の鉱物・植物・動物からつくった白と黒を紹介した。



方解石 (日田市前津江町)



方解石 (臼杵市野津町)



方解石 (豊後大野市)



犬牙状方解石 ※



犬牙状方解石 ※

※ワークショップ参加者Sさんが鉱山技師だった祖父から譲り受けたもの



犬牙状方解石 ※



イタボガキ (豊後高田市)



真珠 (佐伯市)



烏骨鶏の卵 (大分市)



サンゴの骨格／ショウガサンゴ
(佐伯市蒲江 屋形島)



サンゴの骨格／キクメイシ
(佐伯市蒲江 屋形島)



サンゴの骨格／モモイロサンゴ
(佐伯市蒲江 屋形島)

教材ボックス

CCボックス



CALCIUM CARBONATE BOX



OPAM BOX



MATERIALS & TECHNIQUES BOX

マテリアル & テクニック・ボックス

大分県立美術館所蔵作家より、古澤万千子の染色や、アトリウムを飾る須藤玲子の折り紙織など、素材と技術と表現の関係に迫り、制作工程見本や素材とドローイングを収集している。ここから「Hands on Works」が生まれた。



① 型彫
染める前の布、型染
の版を彫る、小刀



② 防染／糊をおく
防染糊の捺染とヘラ



③ 引染／色を差す
摺込刷毛で色を染
める、顔料



④ 防染／筒描きに
よる糊おき
一度糊を落とし、筒
に糊を入れ、色のつ
いた部分を防染



⑤ 浸染
部分的に糸で防染
し(絞り染)、藍に浸
して染める



古澤万千子
MACHIKO FURUSAWA

教材ボックスのために、染色工程見本と子ども用の着物を制作してもらった。型染、絞り染、そして描き染という複数の技法を併用しているにもかかわらず、絵を描く気持ちで染色を行っているため、布としての一体感がある。



須藤 玲子
REIKO SUDO

1階のアトリウムを飾る「水分峠の水草」は、まるでシャンデリアのような巨大なオブジェで、2階の床を水面に見立てている。そのモックアップの他、数多く制作しているテキスタイルから代表的な23点を、素材や制作スケッチなどとともに教材ボックスに入れた。



稲架(はざ)
RICE STRAW
2008

コール
COAL 1995



銅布
COPPER
CLOTH
1993
ポリ折り紙織



紙巻き
PAPER ROLL
2002

竹・バンブー亀甲
TAKE/BRUSH
BAMBOO 2001



手綱縞
CHIRIMEN TAZUNA
STRIPES 2008

たなばた
TANABATA 2004



産毛
BABY HAIRS 2006

錆染め鉄板
SCRAPYARD
IRON PLATE 1994

Workshop

うつわ もりもり ごちそう バンザイ

● 出前ワークショップ
丸の内こども園 5歳児 (日田市)

色とりどりの豆皿、刷毛目や櫛描き、飛び鉋などの技法で模様を付けた小鹿田焼を鑑賞し、好きなお皿、気になるお皿を選ぶ。選んだお皿にどんな料理が合うかを想像し、色紙でおいしそうな料理をつくって盛り付けた。



Hands on Works

ハンス オン ワークス

美術館では作品に触ることはできないことが多いが、作品を目の前にすると、どんな素材でできているのか、触り心地はどうか、触りたくなる欲求は膨らむ。作品に直接触らないと、その重さ、温度、質感はわからない。教育普及では「Hands on Works」と題し、作品に触ることを前提に(この中には眼で触るという、視覚の拡大を促すものも含まれる)、視覚と触覚を体験する教材作品として、作家に直接、制作を依頼している。中には、作家の使用していた道具や素材、テストピースやマケット、ドローイングも併せ持つ。



Tiny essences'15



Tiny essences'12



Tiny essences'11



Tiny essences'16



Tiny essences'17



Series of seed'4



Mycelia



Fluid'4



Series of seed'2

青木美歌

美術家

WORKS

タネや花粉を思わせる手のひらにの小さな作品、螺旋を取り入れた存在感のある作品、増殖していきような形態を取り入れつつも軽やかで触れると壊れてしまいそうな作品、形があるようでない水の形やその循環を思わせる作品など、透明感のあるガラス素材による作品群。子どもから大人まで、思わず「きれい」と言わずにはいられない作品であり、手のひらに載せるとより一層、大切にしたいくなる。

PROFILE

1981年東京生まれ、2006年武蔵野美術大学卒業後、文化庁新進芸術家海外研修制度にて英国へ留学、Royal College of Art 修士課程修了。平成29年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてアムステルダムにて研修。ガラス素材を使って不可視な世界との関係を問いながら制作している。菌類、ウイルス、細胞といったミクロなモチーフを扱い、目に見えるもの、見えないものの全てが相互に関連しあい変容しながら存在している生命の在り様を表現している。

PROFILE

1960年茨城県生まれ、多摩美術大学大学院修了後、1980年代から陶を素材に立体作品の制作を試み、国内外の展覧会で発表。作品は多くの美術館にコレクションされ、さらに「コミッションワーク」も手掛けている。2018年、大分県豊後高田市長崎島に「花とアートの岬づくりプロジェクト2017-18」として「丸くなくて寄り添う」花にうづくまる」が設置された。

中井川由季

陶芸家

WORKS

自然界にある花や実、タネや枝などをイメージさせる作品は、とても親しみやすく、見ていると穏やかな気持ちになる人は少なくないだろう。時には生き物に見え、夜中にひっそりと動き出しそうなユーモラスな形態でもある。しかも触ったとたん、おどろくべき視覚と触覚のギャップが存在する。そのきめ細かいディテールは、触れたものにしかわからず、ぜひ美術館で触ってほしい作品たちだ。



空ると実 10



空を呑む



月に浮く 2



いびつに育つ 白い花



あいまいに重なる



空ると実 11



依って重なる 2

Yuki Nakaigawa

Workshop

命のカタチ

● 出前ワークショップ
野津南保育園 5歳児 (白杵市)

園の外を散歩して、植物や昆虫を見つけ、ルーペで観察した。そして自然の中に存在する命のカタチをテーマに制作する青木美歌と中井川由季の作品を視る・触る鑑賞。みんなも紙を使って命のカタチをつくって並べた。



Hands on
ハンス オン ワークス
Works



《SW-177》

井上雅之

美術家・多摩美術大学美術学部工芸学科教授

WORKS

これは何を表現しているのだらうと、不思議に思う人は多いかも知れない。見れば見るほど、わからないから想像する。不可思議な形態だからこそ、どこか心惹かれる作品だ。釉薬を独自に調合して亀裂を生じさせるディテールも魅力だ。また試しに自身の身長が3cmと仮定して作品を見てみよう。OPAMの作品は手で持てるサイズだが、実は2mを超す作品を制作しており、素材と技術に加え、構造に対する意識が強く働いていることが感じられる。

Masayuki Inoue



《SW-179》



《SW-1711》



《SW-1720》



《SW-1722》



《SW-1728》



《SW-1731》



《SW-1735》

PROFILE

1957年神戸市生まれ。1985年多摩美術大学大学院美術研究科修士課程を修了。1980年代から成形制作過程で現れる亀裂や破砕された欠片に興味を持ち、以後、陶を素材に立体作品の制作を試み、国内外の展覧会で発表。いくつものパーツを組み上げて構成し、大規模な作品をつくり上げる。



PROFILE

1947年埼玉県生まれ。1970年東京藝術大学美術学部工芸科卒業。銅板を打ち絞った球体や袋状の形態をつないだり、組み合わせたたりして不規則な連続が増殖していく金属造形を制作する。鍛金による徹底的な手仕事の制作は、叩けば延びる素材の特性と、作家の形態への意識を融合させた造形となり、工芸の造形の本質を追求しながら、現代美術と工芸が融合した造形活動を行っている。



橋本真之

鍛金造形家

WORKS

アトリエを訪ねると、今までに制作した作品がごろごろと横たわる。近隣の公園や幼稚園にも作品は点在しており、ひたすら金属を叩き続け、命の形を有機的な形で増殖させ続けている作家の思いと時間に触れることができる。そして2020年度から「Hands on Works」に仲間入りする《凝縮力-上昇》は、これらの作品や気配が一気に凝縮された作品である。



《凝縮力-上昇》

Masayuki Hashimoto



ハンス オン ワークス

井上雅之 橋本真之



Hands on Works

Hands on
ハズオンワークス
Works



〈クリンクル〉シリーズ

小松 誠

プロダクトデザイナー・武蔵野美術大学名誉教授

WORKS

紙袋の質感を陶磁器に写した花器〈クリンクル〉シリーズは、紙のもつ偶然のシワやヒダの表情をデザイン化している。MOMA(ニューヨーク近代美術館)をはじめ、国内外の美術館で所蔵されているが、教育普及室では、制作に関わる紙模型、石膏原型、そして雛型を所有している。〈KUU〉シリーズは、小松氏の造形表現として制作。限りなく無に近づいていき、あらゆることから解き放たれて真の自由に通じるという、東洋の美意識に通じる何かを表現したいと思って制作しているという。

Makoto Komatsu



〈KUU〉シリーズ

PROFILE

1943年東京生まれ。1970年から3年間、スウェーデンにてステイニング・グリンズドベリに師事。2008年東京国立近代美術館にて個展「デザイン・ユーモアを開く」を開催。作品は、多くの人々から親しまれる温かみのあるデザインが特徴。代表作は〈クリンクル〉シリーズ。紙の質感を表現した陶磁器で、一見わからずに見えるしわくちゃなデザインは暮らしにユーモアを加える。

PROFILE

1989年東京生まれ。2016年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士。幼いころ茂みの奥で見つけたニホントカゲの存在に心を奪われ、以来爬虫類やドラゴンなど「幻の存在」である幻獣の絵を描く。その後、大理石の持つ神秘的で強い存在感と幻想的な雰囲気惹かれ、脳の中に漂うものの、幻の存在を自分の目の前に強く具現化させてみたいと、神話や伝説に登場する幻獣やドラゴンをモチーフに彫刻を行う。



《Python023》

Ai Sano



アルビオンの民 一水辺

佐野 藍

彫刻家

WORKS

様々な柄・色の大大理石で彫られる〈ハイツン〉シリーズは、石を見ながら模様を探っていくようなライブ感の伴う方法で、蛇を彫るというよりも、石との対話となるという。大分県佐伯市の石灰岩で彫られた《Python022》は全体が白く、イタリアの大大理石で彫られた《Python023》はグレーの色が混ざる。つくり込んだ鱗、磨き上げた石肌は、本物を触った時のそれにそっくりだ。ドラゴンは最も得意とする〈幻獣〉シリーズの作品。大分県豊後大野市の石灰岩でつくられた。寝ぼけているような赤ちゃんドラゴンの眼、そして肉球は愛らしい。



《Python022》

Workshop

触ると触れるイメージと彫刻

- 朝のおとなの1010講座
視るは楽しい教材ボックス

小松誠はプロダクトデザイナーの仕事の傍ら、自分のために陶磁で好きな作品をつくっている。佐野藍は大分県の大大理石を使ってドラゴンの赤ちゃんを彫った。両氏の作品を、ドローイングや道具とともに掌の中で鑑賞した。



ドラゴン伝説 秘密の迷宮

- 出前ワークショップ
日田市立まえつえ保育園(日田市)

佐野藍の作品に触って鑑賞する。リアルな蛇に驚き、可愛いドラゴンの赤ちゃんをそっと撫でる。そしてドラゴンの住んでいる迷宮を想像して描き、最後はロウソク照明を灯した。



視るワークショップ 佐野藍・幻獣

- 出前ワークショップ
日田市立大山中学校 3年生(日田市)

今にも動きそうな蛇を持つと、ズッシリと重く、石を彫ってつくったことを肌で感じる。制作道具や制作風景などとともに、大分県の大大理石で彫られたドラゴンを肌で感じた。



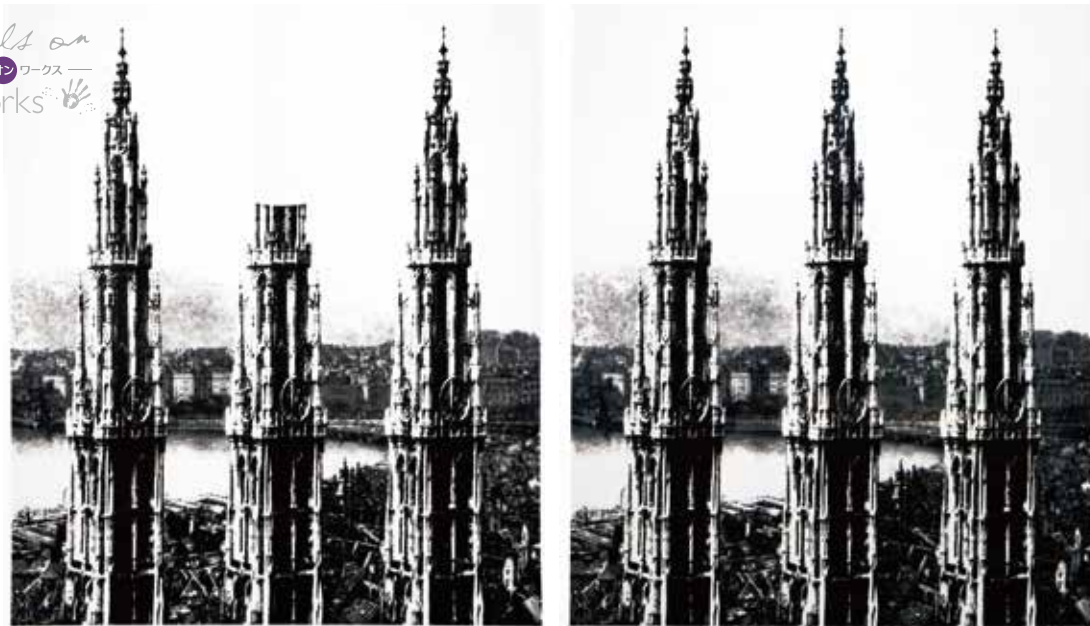
秋の美術遠足@ OPAM

- 中高生担い手育成講座
大分県立植田中学校 美術部(大分市)

1日まるごと美術館で過ごすワークショップ。午前中は建築からコレクションまで隔々を鑑賞。午後は佐野藍の作品を視る・触る鑑賞タイム。最後はワークショップ「ドラゴン伝説-秘密の迷宮」を行った。



Hands on
ハンス・オン・ワークス
Works



《ダミアンの Rond》

小川信治

画家

WORKS

無限連鎖を表現するために風景を繰り返して描く《 Rond》シリーズのうち、教育普及所蔵の《ダミアンの Rond》は、鉛筆で描いた原画からリトグラフを制作し（左／試し刷り／小川氏寄贈）、鉛筆を加えてあらたな作品（右）にしている。また《 Rond 6》は、大分県の風景を取り入れて描いてもらった作品である。（詳細は「ひじゅって、すげえ! 2019-2020」I p.39）

Shinji Ogawa



小川信治のスケッチブックより
《 Rond 6》のためのドローイング

《 Rond 6》

Workshop

鉛筆って、すげえ！ 鑑賞編《 Rond 6》

● 夜のおとなの金曜講座
見るは楽しい教材ボックス

「眼で触る」をテーマに、小川信治の作品を鑑賞した。鉛筆とは思えない超絶技巧による作品に、思わずため息を漏らす。背景に大分県由布市の狭霧台（別府から湯布院に向かう途中の展望台）から見える山々が取り込まれている。



眼で触る 小川信治の世界

● 朝のおとなの1010講座
見るは楽しい教材ボックス

《ダミアンの Rond》《 Rond 6》とともに、特別連続ワークショップ・レクチャー「未知っち、見ちっち」で登場した最新作《マルゲリータ・ポルティナーリ》を交えて紹介。間近で見る鉛筆のタッチと筆跡に、息をのむ参加者たちだった。



PROFILE

1959年山口県生まれ。見慣れた風景や名画などを改変して時間や空間の構造を考察し、世界の可能性を提示する作品を制作している。名画から中心となる人物を消し去り、空白を想像力で補う《Without You》シリーズ、画面の中で有名な建築や人物を二重化して描く《Perfect World》シリーズなどがある。国立国際美術館、千葉市美術館、クラクフ現代美術館（ポーランド）などで個展を開催。

PROFILE

1951年北海道生まれ。創形美術学校修復研究所および修復研究所21にて油彩画修復に携わる。2002年より東京藝術大学大学院美術研究科保存修復油画研究室で油彩画修復と金地テンプラの技術指導を中心に文化財保存分野の人材育成に携わる。これまで「パリ日本館藤田絵画修復事業」に際し修復家としてパリに派遣されたのをはじめ、絵画修復の専門家として数々の重要な油彩画作品の修復を手掛けてきたほか、迎賓館赤坂離宮や東京大学安田講堂等の建物装飾としての油彩画作品の修復を牽引してきた。

石膏下地塗～レリーフ



金箔磨き～刻印打ち



箔下とのこ塗～金箔貼り



金箔上の色彩



木島隆康

修復家・東京藝術大学名誉教授

WORKS

卵を展色材として描くテンペラ画は、下地から金箔貼り、そして彩色まで制作工程が複雑だ。修復家の木島隆康に、フラ・アンジェリコ《受胎告知》の部分（大天使ガブリエルの顔）の模写とともに、その制作工程見本を依頼した。皮膚の透明感、血の通っているようなリアリティーを出すために緑色の顔料を使って下塗りを行い、最後は服地の部分に接着剤で模様を描き、金箔を貼りつける技法／ミッションで仕上げていく。



ミッション

Takayasu Kijima

Hands on
ハンス オン ワークス
Works

時松辰夫
木工デザイナー

WORKS

サクラ、ケヤキ、マツ、イチヨウなど、県産材を使った器やカトラリーの、木の色や木目は一つとして同じものがない。自然の風合いを大切に、木の個性を生かした器とカトラリーは生活を豊かに彩るだけでなく、自然とともに生き、自然を大切に思う人々にとって愛すべきモノたちだ。特に木の皮の風合いをそのまま取り入れたケヤキのボールや、JR九州「或る列車」内で使用されているランチボックスは、列車の形をイメージして制作されている。ぜひ手にとってほしい。

Tatsuo Tokimatsu

器コレクション

時松辰夫の木の器の他、刷毛目や櫛描き、飛び鮑の技法で模様を付けた日田市の小鹿田焼、鍛金による世界に一つしかない器、一枚の紙を広げてできる不思議な空気のある器、色とりどりの豆皿など。形の面白さとともに、重さ、触り心地を味わうと、これにどんな料理を盛り付けたらおいしそうかと、自然に使い方のイメージが湧き、子どもから大人までの工作ワークショップで大活躍している。

PROFILE

1937年大分県九重町生まれ。1980年に43歳で大分県日田産業工芸試験所を退官。工業デザイナー。秋岡芳夫が指導する東北工業大学の第三生産技術コミュニティ生産技術研究室に招聘されて研究員となり、岩手県旧大野村や北海道釧路市町で、木工を通じたまちづくりに深くかかわる。1991年に大分県湯布院町にアトリエときデザイン研究所を開設。後進の指導にあたりつつ、湯布院のまちづくりに参加する。2021年1月に永眠。

椅子コレクション

チャールズ&レイ・イームズ《イームズ・チェア》《エレファント・チェア》、柳宗理《バタフライ・ツール》《エレファント》、ヴァーナー・バントンによる世界初のプラスチック一体成形の椅子《バントンチェア》など、角度を変えてみたり、座り心地を楽しんだりするデザイン・アイテム。椅子を動物に変身させるワークショップの導入にも使う。

Eames Elephant

Chair Collection

Vitra Panton Chair

柳宗理 Elephant Stool

Eames Molded Wood Shell Chair

柳宗理 Butterfly Stool

特別ワークショップ

おうちでワークショップのために

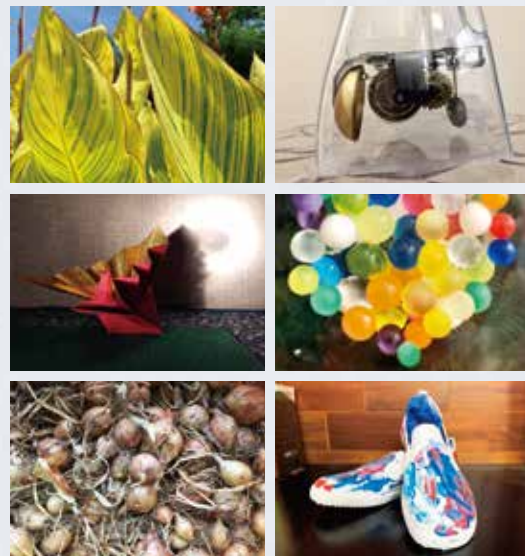
しばらく休んでいた美術館でのワークショップは、人数限定で事前申し込み、そして美術館で1時間、続きはおうちで行う時間短縮型ワークショップから再開した。

空想建築 未来のお家



想像力と創造力をあわせて、こんなところに住んでみたいという家をつくる。美術館では世界中の様々な建築を紹介し、材料を1パックにまとめた「OPAM建築弁当」をテイクアウトして自宅で作成。完成した作品の画像を美術館に送ってもらった。

視点を変える「ハウス・オブ・カード」をつくる



美術館では、自然の造形美から身のまわりのデザインまでを集めたチャールズ&レイ・イームズの《ハウス・オブ・カード》で遊ぶ。そして各自で家にあるモノを、照明・距離・角度にこだわり、写真を撮った。みんなの家の様子と視点を生かしたカードができた。



ソロ・ミュージアムのすすめ

コロナ禍では黙々と制作に打ち込むワークショップを開催。素材と技法を学びつつ、自身の視点を獲得し、美術を一人で楽しめるようになることを目指した。このワークショップは毎週1回1時間の3回連続講座で、続きはおうちで行うことも取り入れた。

鉛筆ってすごい！

鉛筆と遊ぼう！



身体全体を大きく使って線を描き、その中に動物を描きこむ。硬い鉛筆で描いた動物の上にやわらかい鉛筆で塗りつぶすと、動物が浮き上がる。4H、4B、HBの3種類の鉛筆を持ち帰り、家でも描いてみる。最後は展示室で鉛筆をデカデカに使った作品を見に行った。



宇宙を描く



初めて見る10Bから10Hの22種類の鉛筆。材料となる黒鉛を見た後に、自分で削って準備が整ったら、紙を真っ黒に塗りつぶす。手も足もデカデカに黒光りさせながら、練り消しゴムを駆使して宇宙を描いた。



デッサンの時間



デッサンはモノを視る眼を訓練する方法の一つ。描く姿勢、鉛筆の使い方、モチーフのセッティング、そして構図のとり方など基本を学び、家でもじっくり描いてくる。モノを視る眼を深化と進化させるため、徹底的に視るワークショップとなった。



夏の特別ワークショップ

セタキャラクシー 光の宇宙を闊歩する

初めに懐中電灯で遊び、風船にミラーシートを貼って、ふたたび懐中電灯で光らせる。最後に地球のバルーンを中心に、キラキラ、ピカピカの電飾を張り巡らせ、幻想的な宇宙空間をつくった。家でも簡単にできるので、ぜひ遊んでほしい。

ぱたふわワークショップ 風のカタチを楽しもう!

半紙を切れないように揉みながら柔らかくする。うちわで床を叩きつけるようにあおぐと、紙はまるで魔法の絨毯のように浮く。細く切り裂き、小さくちぎった紙と一緒にあおぐと、紙吹雪の中、白い竜が空中を舞うように飛ぶ。コロナ禍で、展示室の作品に近寄ると密になり、話しながら作品を見られないので、代わって教材ボックスから風を利用して増える植物のタネを紹介した。

音のカタチ

耳を澄まして聞こえる音は、どんなモノから出ているのかを想像する。紙コップにテグスを付けてこすると怪獣の叫び声のよう。スプーンを吊るして叩くとチャイムのよう。音のカタチは不思議だ。最後は全員のテグスを繋ぎ、音の伝わりを楽しんだ。



シャドウ・スティックの森 三角形の影と陰

新聞紙を丸めて棒状にしたものをつなげて三角形をつくる。これを基本形に組み合わせ、天井から吊るして森にした。2日間、午前・午後と行うワークショップのため、初めの参加者はユラユラする影と陰を楽しみ、回を重ねるごとに、参加者は増え続けた三角形の森を潜って遊んだ。

からだと遊ぼう!

全身を使って遊ぶ、感覚活性化のワークショップ。部屋全体に広がる長さの「ぼわんぼわんロング」、バランス感覚を楽しみながら立体オブジェをつくるなど、少人数ならではの遊びのオンパレードだ。2日間、午前・午後と全コース内容を変えて行った。

大人だって遊びたい! からだと遊ぼう!

感覚を活性化させる体感型ワークショップは、美術館でもアウトリーチでも子どものコースとして開催することが多いが、この夏は大人のコースで開催した。普段はあまり意識しない触覚を意識する、鏡を見ているつもりで相手の動きを真似る、大小さまざまなボールと戯れる、目隠しをして作品を見る・伝えるなど、遊びながら感覚をたっぷり刺激した。



秋の特別ワークショップ

身体で見る展覧会 「ひじゅつかんさんぽ ①」

コレクション展示室で数点の作品をみんなで見て、後はゆっくり歩きながら見て回る、「みんなの土曜アトリエ」をミニ・バージョンで再開した。貼ってはがせる不思議な絵の具を使って、OPAM5周年記念のための装飾もつくった。



身体で見る展覧会 「ひじゅつかんさんぽ ②」

アトリエを真っ暗にすると壁から動物たちが浮き上がる。その蓄光シールを使って天井に星空をつくった。その後、コレクション展示室をゆっくり歩きながら、見て回った。



OPAM5周年記念ワークショップ OPAM・ラッピング・プロジェクト

2階アトリエ前の廊下のガラス面を、透明シールに色つきシールを重ねて貼ったり、絵を描いたりして、ステンドグラスのようにカラフルに、デコレーションをした。何を描くか迷ったら「花火」。たくさんのカラフルな形が打ち上り、華々しくなった。

冬の特別ワークショップ

キャンドル・イズ・ビューティフル

キャンドル照明を並べたり、アトリエ中に広げたりして、部屋を幻想的に変化させる。コレクション展「ライフ・イズ・ビューティフル!」では、太陽や月の光、そして季節の光に注目して見て回った。



What's Museum? “みる”を楽しもう!



初めての美術館

講師: 榎本寿紀 (大分県立美術館 学芸企画課 教育普及室 室長)

「みる」視点を積極的にすると楽しみ方の幅が広がり、美術館はけっして難しい場所ではない。もっと気軽に足を運んでほしい。



どこでも美術館がやってきた

講師: 鬼本佳代子 (福岡市美術館 主任学芸主事)

中原千代子 (福岡市美術館 教育普及専門員)

福岡市美術館はリニューアル休館をきっかけに、アウトリーチ活動「どこでも美術館」を始めた。これは美術館の所蔵作品を題材に、どこでも持ち運び可能な教材ボックスとしてつくられたものだ。この教材ボックスを実際に触りながら、使い方や開発した時の話、アウトリーチ活動の様子などを聞いた。



鬼本佳代子

中原千代子

ミュージアムって、何? 美術館と博物館

講師: 菅野剛宏 (大分県立美術館 学芸企画課 課長)

美術館と博物館は、何が同じで何が違うのか? 作品と資料の違いを中心に、美術館と博物館の調査・研究・収集・保存・展示について話を聞いた。



暮らしと造形 竹と生活

講師: 藤田洋三 (写真家)

藤田洋三は、生活の中から生まれた竹細工について、写真を撮りながら調査・研究を続けている。身近なモノでありながら、歴史的なモノでもある竹細工の用と美についてのレクチャーとなった。



ミュージアムって、何? 収集の眼・足・手

講師: 菅野剛宏 (大分県立美術館 学芸企画課 課長)

美術館・博物館にある作品や資料は、どのようにして集められるのか。民俗資料・竹細工について、フィールド・ワークや調査研究の話を聞いた。



こどもワークショップ

一寸法師と親指姫

みんなの背丈が3cmになったら、まわりの世界はどのように映るのか。竹細工の中に自分のミニチュアを多数置き、遠近法を使って自分の写真を撮った。



みんなで遊ぼう! バンブーライフ

これは何に使うのか? 竹細工の用途を考え、その道具や器に合った食材を紙でつくって一緒に並べた。



あれれのあれれ?

並べ方を変えてみる。照明を変えてみる。懐中電灯の明かりで見てみたり、さらに鏡に映して見たり。竹細工をさまざまな見方で楽しんだ。



特別ワークショップ・レクチャー What's Museum? “みる”を楽しもう!

朝のおとなの1010講座

番外編 「双眼鏡と顕微鏡で竹を見る」

近寄って、離れてと、同じモノでも距離を変えて視れば、全く異なるモノが視えてくる。視点を変え、ミクロとマクロの視点で竹細工のインスタレーションを鑑賞した。



夜のおとなの金曜講座

番外編 「陰影礼賛で竹を見る」

照明を変え、薄明りの中、竹の色と形を見る。シルエットや網目の影に注目すると、今まで気が付かなかった新しい美しさを発見することになる。



竹細工展示

道具の博物誌 暮らしの中の竹

大分県立歴史博物館に民俗資料として所蔵されている竹細工の数々は、博物学的資料・史料である。これをアノニマスデザインの視点でとらえ、インスタレーション展示を行った。通常はガラス越しに見るが、ガイドスタッフと一緒に間近で見る時間を設定。用途についての解説も行った。



協力:大分県立歴史博物館

特別連続ワークショップ・レクチャー

未知っち、見っち vol.1 /

科学者と表現者

科学との出会い。芸術との出会い。未知との出会い。
国立科学博物館の研究者と、画家やデザイナーなどの
表現者との対談形式の講座を開催した。



其の一

鉱物が好物♡
石のイロ・カタチ、いろいろ

講師：門馬綱一（鉱物学）× 山崎哲一郎（画家）



其の二

人はどこからやってきた？
～ヒトの起源を求めて

講師：篠田謙一（分子人類学）× 菊地びよ（舞踏家）



其の三

はるかな宇宙、彼方の私
～帰りは夜空を眺めよう!

講師：洞口俊博（天文学・宇宙科学）× 小川信治（画家）



其の四

あなたは今住んでいる地球の本当のことを知っていますか？
～数学的展開・結晶の世界

講師：宮脇律郎（結晶学）× 中嶋浩子（アーティスト/デザイナー）



其の五

見えないけど、そこにいる
～菌類のふしぎ

講師：細矢剛（菌学）× 青木美歌（美術家）



音を描く、絵を奏でる



●総監修
鈴木広志
サクソフォン・マルチリード
作曲家



小林武文
ドラム・パーカッション
作曲家



ピアーチェ
山田奈津紀 (ピアノ)
幾嶋明日香 (ソプラノ)



藤澤菜那 (ピアノ)

感性育成事業

感性育成事業はiichiko総合文化センターと大分県立美術館が共同で行った、子どもたちの感性を刺激する特別連携プログラム。ミュージシャンの鈴木広志監修のもと、打楽器奏者の小林武文、大分の演奏家(ピアーチェ、藤澤菜那)が加わり、音楽と美術を交互に体験・表現するワークショップを行った。

中津市立樋田小学校



STEP1

ピアニストの藤澤菜那が、イメージした色や気持ちをテーマにした演奏を行う。鈴木広志がペットボトルを笛にして加わると、子どもたちは大喜び。最後に4年生が和太鼓の演奏をプレゼントした。



STEP2-1

5・6年生が、盆踊りの「二つ拍子」の和太鼓と口説きを演じる中、絵を描く。そこに4年生が加わった。とても楽しく、演奏が終わっても描き続ける子どもたち。でも音楽を聴いて描いたことになるのか、考えた。



STEP2-2

絵から作曲、その曲を聴いた人たちがイメージして絵を描く、その絵から作曲…という、音楽と美術の連続ワークショップのもとになった曲を聴く。そこから最後に生まれた音楽を、鈴木広志、小林武文、藤澤菜那が演奏し、その曲のイメージを元よく描いた。

日田市立三和小学校



STEP1

ピアーチェの山田奈津紀と幾嶋明日香が、ベートーヴェンの生涯をテーマに演奏。そこに鈴木広志も登場し、なんと縦笛を2本同時に吹きながら演奏に加わった。最後に子どもたちが鼓笛隊の演奏をプレゼント。



STEP2-1

音楽を聴いて絵を描くってどういうこと?鼓笛隊が演奏する中、絵を描くと、飛び入り参加する子どもも現れる。全身絵の具だらけになったけど、どの音を描いたか覚えている?音を描くことについて、みんなで考えた。



STEP2-2

音楽と美術の連続から生まれた曲を、目をつむって聴く。演奏するのは、鈴木広志と小林武文とピアーチェ。音楽からイメージを膨らませ、全身絵筆になって、ダイナミックに描いた。この絵からどんな曲ができるか楽しみだ。



STEP2-2で演奏した音楽

洛中洛外図屏風(上杉本)から作曲(2009年)
《金の雲》より《霧》《犬に追われて》鈴木広志作曲

この曲を聴いて目黒バーシモンホールで描かれた絵から
作曲(2011年)
《いわしとロビン》鈴木広志作曲
《色の煙突》小林武文作曲

この曲を聴いてOPAMで描かれた絵から作曲(2017年)
《色のファンファーレ》鈴木広志作曲
《あばかんあばかん》小林武文作曲

STEP2-2では、この曲を聴いてみんなで絵を描きました!!
そしてその絵から作曲して、コンサートを開催
(次ページSTEP3へつづく)

音を描く、絵を奏でる

感性育成事業

STEP3

三和小学校6年生、樋田小学校4～6年生が描いた10×4.4mの作品3点から、鈴木広志、小林武文、藤澤菜那、ピアーチェの山田奈津紀、幾嶋明日香がそれぞれに作曲した曲を披露するコンサートを行った。iichiko音の泉ホールいっぱいにみんなの描いた絵を展示し、子どもたちは2階席から鑑賞。自分たちの描いた絵からこんな曲が生まれたことに、初めはとてもびっくりしていたが、ジャズ調の曲では思わず足でリズムをとる。アンコールでは、鈴木広志の掛け声で手拍子のセッションも行った。

STEP3で演奏した曲

《あばかんあばかん》小林武文作曲

中津市立樋田小学校の絵からインスピレーションを受けた曲

《Bouquet et Dance—まるの花束と踊る足跡》藤澤菜那作曲

《TSURUMIGARAN》小林武文作曲

日田市立三和小学校の絵からインスピレーションを受けた曲

《Blooming flowers》幾嶋明日香作曲

《夢幻》山田奈津紀作曲

《UZU》鈴木広志作曲

アンコール

《金の雲～犬に追われて》鈴木広志作曲



コンサートの後は、美術館2階のアトリエへ移動。今度は美術館での作品鑑賞だ。たっぷり音を全身に浴びたので、はじめに3000個のピンポン玉で、色のシャワーを浴びる。3階ホワイエで建築のディテールを鑑賞し、天庭の作品を見ながら距離、角度、構図、イメージ、光など、モノを視るときの

ポイント聞いた後、各自でコレクション展「ライフ・イズ・ビューティフル」を見に行った。6年生にもなると見方も速度も様々で、数人はいつまでも展示室で熱心に見ていた。



～音を描く、絵を奏でる～

この感性育成事業ができるまで

iichiko総合文化センター（以下、センター）と大分県立美術館（以下、県立美術館）は、全国でも稀な音楽ホールと美術館が隣接する位置にあり、共通の団体である（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団（以下、当財団）が管理している。当財団は、今年度より「音楽と美術の融合」をテーマに、主に小学生等を対象に、「感性育成事業」を実施することとなり、私はその事業担当者となった。

これまでセンターはクラシック音楽の出張ワークショップを、県立美術館は美術の出張ワークショップをそれぞれ県内の小学校、幼稚園、福祉施設等で行ってきたが、センターと県立美術館の職員は全く関わることはなかった。この「感性育成事業」を実施する上で、単に「音楽と美術」の出張ワークショップをそれぞれセンターと県立美術館で交互に実施するだけでなく、この事業を通じて、センターと県立美術館の真の連携ができないかと考えた。つまり、準備段階から双方の職員同士が関わるようにしたいと思った。

そんな思いの中、4月のある日、県立美術館の教育普及室長の榎本寿紀と話をしていた。2017年に県立美術館で「音楽と美術」をテーマにした事業を実施したことを聞いた。この事業は、まさに私に与えられているミッションの「音楽と美術の融合」というテーマに沿うものであり、当時講師をしていた鈴木広志さん（サクソ奏者・作曲家）等のアーティストの役割を、センターが出張ワークショップを一緒に行っている大分のアーティストに依頼することで、双方の職員が準備段階から強制的に関わる必要がでてくる。最初の頃は、鈴木さんに講師として来ていただき、そのノウハウを大分のアーティストが学ぶ。ゆくゆくは大分のアーティストだけでこの事業が実施できるようになれば、大分の財産にもなる。何よりも企画内容が個人的にすごく面白いと思った。生演奏の音楽を聴きながら、そのインスピレーションを元に巨大な紙に自由に絵を描くなんて、子どもたちが絶対喜ぶと。

4月に企画して9か月間、コロナの感染拡大等、様々な出来事があったが、この事業は大成功を収めた。携わってくれたアーティストの方々、学校の先生方、送り出してくれた子どもたちの保護者の皆様、両施設の職員にこの場を借りて、心から感謝したい。

参加してくれた子どもたちの経験が将来どのような形で生きるのかがとても楽しみだ。音楽を聴いたり、絵を描くようになった。音楽を聴きながら、絵を描いたり、勉強するのが好きになった。音楽ホールや美術館に行くようになった。なんでもよい。10年後に「あの時、こんな面白いことしたんだ。楽しかった～!」って、言ってくれたら。この大きな経験を糧に今後も新たなものを企画し、挑戦していきたい。

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

広報・連携推進課 課長代理 橋本 修



音を描く、絵を奏でる



先生のためのワークショップ
「音と形を楽しむ」 講師：小林武文

打楽器奏者の小林武文を講師に招き、様々な素材からできている身の回りのモノを叩いて音を奏で、音と形の関係を楽しむワークショップを行った。ワークショップで使う材料や道具を並べておく。初めに参加者は気になるモノを一つ選び、その音を確認。二人一組で会話をするように音を出し合う。最後は全員でセッションも行い、そのまま授業でも取り入れられる、あるいはヒントとなるようなワークショップになった。



中高生担い手育成講座

「連続絵画・図形楽譜と即興演奏」

岩田中学校 1年生（大分市）

演奏：鈴木広志、小林武文

「あのミュージシャンをうちの学校に呼んで、ワークショップをしてほしい」。2016年に大分県立美術館で行った音楽と美術のワークショップ「連続絵画 絵から音へ、音から絵へ」に参加した当時小学生の参加者が、学校に提案して開催が実現した。鈴木広志、小林武文の両氏が学校を訪れ、2016年に描かれた作品から作曲した曲を演奏。みんなで鑑賞した後、奏でられた音を色と形で表現する。素材と色の工作キット「音の玉手箱」を一人一箱使う。さらに出来上がった全員のコラージュ作品を一行に並べ、図形楽譜にして即興演奏を行った。



音を描く、絵を奏でる



ひじゅつかんの旅・旅じたく

杵築市立東小学校 6年生 (杵築市)



ひじゅつかんの旅じたく 「音を描く あばかんあばかん」

音楽と美術のワークショップを「ひじゅつかんの旅じたく」で行う。導入では、リラックスした思いのポーズで耳を澄ます。そして2016年に描かれた作品から小林武文が作曲した《あばかんあばかん》のCDを聴きながら、5×2.2mの大画面にドローイング&コラージュで作品をつくった。



ひじゅつかんの旅 「一緒に見る」

旅じたくでつくった作品を美術館2階アトリエに展示して、みんなを迎える。この作品で、距離・角度を変えて視たり、光に注目して視たりと、見る準備を行い、コレクション展「ライフ・イズ・ビューティフル!」に行った。絵画作品から音は聞こえてくるか? 耳を澄まして作品を見た。



音を描く、絵を奏でる



出前ワークショップ 「音具をつくろう～うなる竹」

日田市立大山中学校 2年生

初めに不思議な音具アナラポスの音に、耳を澄ます。そして円筒形の竹を短く切って割ったものを、平らになるまで削って、細長い流線形にする。糸を結んで振り回すと、回転しながら風を巻き込み、音がした。焼き印をいれて装飾もした。



アトリエ・ミュージアム 「カスタネットをつくろう!」

大分県立芸術文化短期大学でアートマネジメントを勉強している学生によるワークショップ。牛乳パックにペットボトルのキャップを張り合わせてカスタネットをつくる。工夫次第で、オシャレになったり、かわいい動物の口になったりした。※つくりかたはVol.2 p8



出前ワークショップ 「びんびんスティック」

大分大学教育学部附属小学校 2年生

割りばしに絵を描くだけ? でも机に押さえつけ、指ではじくと、いろんな音がする! 首からぶら下げられるフォルダーもつくった。※つくりかたはVol.2 p3



アトリエ・ミュージアム 「くるしゃらネックレス」

ペットボトルのキャップ、缶のピン、短く切ったストローなどを、きれいに色を塗ったり、組み合わせを考えたりしてタコ糸に通す。くるくる回すと、しゃらしゃら音がするネックレスができた。※つくりかたはVol.2 p6



音を描く、絵を奏でる



音を描く、絵を奏でる

音を描く、絵を奏でる



美術と音楽(舞台芸術)の融合〜
世界に一つだけの
ダンス

出演：86B210 (鈴木富美恵、井口桂子)
鈴木広志、小林武文

『宇治山哲平にみる「やまとこころ」』展を楽しむための、音楽と美術を組み合わせた特別企画。大分県立美術館学芸員による宇治山展ギャラリーツアーを楽しんだ後、iichikoグランシアタのロビーに移動。宇治山哲平《弾む》の陶板レリーフ前で、この絵からのインスピレーションを元につくられた音楽とダンスパフォーマンスを鑑賞した。作曲は鈴木広志、演奏は鈴木広志と小林武文、ダンスはコンテンポラリーダンスカンパニーの86B210。躍動感と迫りに満ちた30分のパフォーマンスが、3回にわたって繰り広げられた。



世界に一つだけのダンス
ブレ・映像上映展

ダンスパフォーマンスに先駆け、出演する86B210のダンス映像とOPAMでのワークショップ(2016)、そして作曲を担当した鈴木広志がOPAMで小林武文と共にを行った「音と色彩のコンサート」(2017)の映像を上映した。会場には写真も多数、展示した。

夜のおとなの金曜講座

美術からみた文化
「音楽と美術、そしてダンス」

「世界に一つだけのダンス」のパフォーマンスを見られなかった人たちのために、そして一般公開はしなかった「音を描く、絵を奏でる」のコンサートとワークショップ「連続絵画・図形楽譜と即興演奏」を、映像で紹介した。



ひじゅつかんの旅・旅じたく

「ひじゅつかんの旅じたく」として、学校で身体と感覚を活性化させる美術体験ワークショップを行い、子どもたちと仲良くなった後、美術館で展覧会と一緒に視る「ひじゅつかんの旅」を行う。学校と美術館を往還するワークショップ&ギャラリーツアーである。



大分県立鶴崎工業高等学校 建築科 (大分市)

ひじゅつかんの旅じたく 「未来のお家」

建築科全生徒120名が参加し、建築関連ワークショップを行った。最初にコミュニケーションとは何かを考える。人と人の間にあるモノはとても大切に、押したり、引いたり、相手の気持ちとのやり取りによって成立することを、指先で棒を支えあうミニ・ワークショップ「コミュニケーション・スティック」で体感した。そして日本の、世界の、不思議な建築や描かれた空想建築を紹介する。自由な発想で夢が広がり、視野も広がることを、「住みたい家」と題した未来の空想建築を想像して描くことで確認した。



ひじゅつかんの旅 「一緒に視る@コレクション展 & 坂茂建築展」

美術館でコレクション展「ブラック&ホワイト」と「坂茂建築展」を見る。コレクション展では素材と技法に注目して作品を鑑賞。「坂茂建築展」では模型とスケッチを食い入るように、またOPAMの建築ディテールもしゃがんで見るなど、建築の細部まで鑑賞した。



宮河内幼稚園 5歳児 (大分市)

ひじゅつかんの旅じたく 「リングの花火」

直径15cmの輪投げ用リングを転がしたり、コマのように回転させたりして遊ぶ。続いてフラフープも転がし、床に並べてみる。さっきのリングや丸・三角・四角の色紙も一緒に使って、花火のように並べる。最後は透明タイプの色つきシールで花火模様をつくり、一緒に並べた。※あそびかたの詳細はVol.2 p17-18



ひじゅつかんの旅 「ころころピンポン&一緒に視る」

美術館では、2階廊下のガラス面に「旅じたく」でつくった花火シールを貼って、みんなが来るのを迎えた。まず3000個のピンポン玉のシャワーを浴び、トレーの中に同心円状に並べて、ここでも花火を上げるようにピンポン玉を投げ上げた。そしてコレクション展「新しき美の仲間たち」へ。子どもたちは何が描かれているか、細かいところまでじっくり視た。今度は家族と一緒に来て、みんなが案内する番だ。



九重町立淮園小学校 4~6年生 (九重町)

ひじゅつかんの旅じたく「虹の刃をつくる」

割りばしでミニチュアの刃をつくり、好きな色をテーマに、身長と同じ長さの紙テープをくっ付けた。振り回せば、刃の軌跡が宙を舞う。上下左右に回転を加え、身体と刃が一体になるように動きまわった。※つくりかたはVol.2 p26



ひじゅつかんの旅「一緒に視る」

コレクション展示室に行く前に、視るためのウォーミングアップ。アトリエの中にいる動物を探すことや、鉱物写真を見ながら「硬そうな」「大きそうな」「家に飾りたい」鉱物を探した。展示室ではしゃがんでネコの彫刻と目を合わせてみることや、絵から離れて指の隙間から色に注目すること、寝ころびながら建築空間を感じてみることを行った。





びじゅつかんの旅・旅じたく

びじゅつかんの旅 「一緒に見る」

竹をスライスしたオリジナル・トイ「たけびょん」「竹積」を触ってから、七島蘭のベンチの脚を見る。素材が気に入り、コレクション展「ライフ・イズ・ビューティフル!」でも、どうやって描いたか、何を使ってつくったかが気になった。



大分県立大分支援学校 高等部 2年生 (大分市)



びじゅつかんの旅じたく 「〇△□で、どどーんと花火!」

黒いカーベットのの上に、大小さまざまな丸・三角・四角を並べて、花火模様をつかった。一人で黙々とつくったり、友達とワイワイ一緒につくったりしたあと、花火のまわりを歩いて見て回る。そして透明タイプの色つきシールと油性ペンで小さな花火模様をつかった。



大分県立聾学校 小・中学部 (大分市)

びじゅつかんの旅じたく 「ピカぱた」

30mものアルミ箔をロールから引き出すと、見たこともないキラキラが広がる。そっと持ち上げ、素早く手を放すと、ゆっくり落ちる。切れたところは、握ればすぐにくっつく。少し工夫をすると、まるで木の葉のようにユラユラ落ちる形もつくれる。どんどん形を変え、最後は細かく小さくして、うちわであおぎ、銀色の竜巻をつくった。 ※あそびかたの詳細はVol.2 p19-20



びじゅつかんの旅 「一緒に見る」

みんなが「旅じたく」でつくった花火模様と、宮河内幼稚園の子どもたちの花火模様も飾って、美術館で迎える。コレクション展「ライフ・イズ・ビューティフル!」は、浮世絵の着物の模様がきれい、特に人気があった。



宇佐市立天津小学校 4～6年生 (宇佐市)

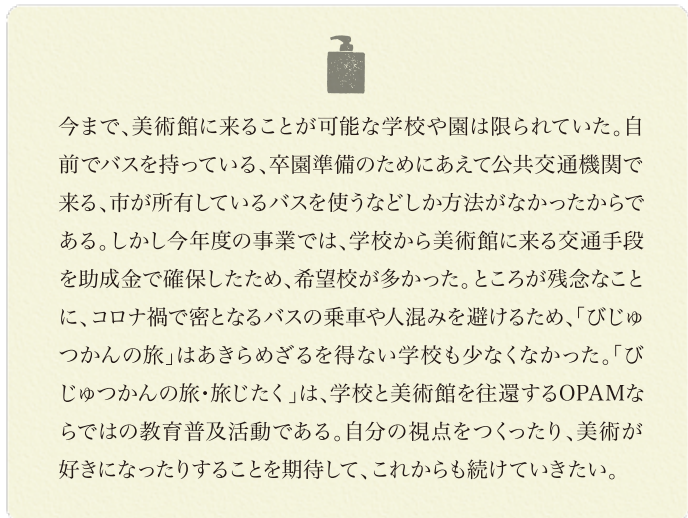
びじゅつかんの旅じたく 「べっとんべとん」

昨年度、出前ワークショップで小川信治の作品を鑑賞した5・6年生と、4年生が参加する。「旅じたく」はコミュニケーションがテーマ。初めに指で棒を支えあい、落とさないように動く「コミュニケーション・スティック」。次は二人一組になり、紙管を使って音を聴く。その紙管を支柱にして、セロハンテープを教室の中に張り巡らせた。テープを張るときは、べとべとするテープに捕まらないように友達と協力して進める場所を探し、ほふく前進や大跨ぎを試みる。細かい色紙をまき散らすと、花が咲いたように部屋全体が華やかになった。セロハンテープを巻きながらまとめて、最後は大玉にして転がした。



びじゅつかんの旅 「一緒に見る」

「旅じたく」でつくった大玉セロハンテープを、さらにカットしてつくった立体作品がお出迎え。展示台上に載り、照明が加わると、見え方が全く変わった。コレクション展は「天国と地獄」がテーマ。おどろおどろしい作品や心なごむ作品のほか、かわいらしい作品も見つけた。



びじゅつつて、すげえ! 2020-2021
美術館においてよ。

企画・制作・発行
OPAM地域連携創造事業実行委員会

事務局
公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団
大分県立美術館
大分市寿町2番1号 TEL.097-533-4502

執筆
榎本寿紀 大分県立美術館 学芸企画課 教育普及室 室長
橋本 修 大分県芸術文化スポーツ振興財団
広報・連携推進課 課長代理

編集協力:ラルゴ 井上裕子
デザイン:ディ・エア 佐々木ツヨシ
印刷:株式会社 明文堂印刷

2021年3月発行
※本誌に掲載した記事・写真・イラスト等の無断転載は禁じます。

OPAM地域連携創造事業実行委員会は、大分県芸術文化スポーツ振興財団(大分県立美術館)、大分大学、大分県立芸術文化短期大学、大分県、大分県教育委員会で構成された実行委員会組織です。国の助成を受け、地域や学校と連携しながら「美術による人材育成」を目的とした活動を行っています。



令和2年度 文化庁
地域と共創した博物館創造活動支援事業



大分県立美術館教育普及室

<http://www.opam.jp>

<http://www.facebook.com/OPAMeducation>